

〔第26回 学術集会シンポジウムⅡ〕

家族同心球環境理論 (CSFET) を活用して実践した成果と課題

神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野 (家族支援CNSコース)

法橋 尚宏

家族同心球環境理論 (CSFET) は、法橋が提唱した家族看護中範囲理論である。提唱者は大学教員であるが、家族看護の実践は専門的で研究的視点をもった実践が必要であり、臨地応用の場を確保しなければならない。そのため、家族支援専門看護師の養成、家族看護クリニックの開設など、実践者と研究者との協働を推進している。その過程で、家族看護実践理論として、家族ケア/ケアリング理論 (FCCT)、家族ビリーフシステム理論 (FBST) などの提唱の必要に迫られた。現在は、3大家族看護理論 (CSFET, FCCT, FBST) の拡張と修正を行っている。

家族看護クリニックでは、受益者である一般市民に家族看護が認知されていない現状を実感し、広報、普及活動の推進が急務である。外国人家族を対象とすることもあり、日本型家族看護のグローバル化、トランス文化家族看護の推進が必要である。3大家族看護理論は、日本語版のみならず、英語版、中国語版、インドネシア語版、フィリピン語版などがあり、多様な家族に対応できる利点がある。

実践者と研究者に対しては、家族同心球環境理論

研究会の月例ミーティング、さまざまな学術集会での交流集会などで、“わかる (理論)” と “できる (実践)” を組み合わせた体験を提供している。実践者から即効性を求める声も多く聞かれるが、理論、アセスメント、家族ケア/ケアリングは、簡単に会得できるものでないため、実践者の意識改革も望まれる。eラーニング、ウェビナーなどを拡大し、体系的な知識の獲得、視野を広げる機会として現任教育が必要であろう。理論は、難しいことをやさしく理解できるようにするものである。

現在、家族看護の質に関する指標の開発 (家族支援の実証研究) に取り組んでいる。CSFETでは、家族に関するアウトカム指標として、家族環境地図 (FEM) の家族関係レベルの変化、家族環境評価尺度 (SFE) の家族機能度の変化などを使用している。しかし、家族症候別、家族ケア/ケアリング別のプロセス指標も不可欠であり、家族レジリエンスの発達度、家族ビリーフ度などの尺度開発に着手し、実証研究を継続している。